

例 言

1. 本書は、埼玉県入間郡大井町内に所在する遺跡群の1998年度の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査および整理作業は、国庫（3,650,000円）、県費（1,825,000円）の補助金の交付を受け、平成10年4月3日から平成11年3月31日まで実施した。
3. 調査組織

調 査 主 体 者 大井町教育委員会	文化財保護係長	坪田幹男
担 当 課 生涯学習課文化財保護係	文化財保護係・庶務	高橋偕子
教 育 長 遠藤正明	文化財保護係・発掘調査担当者	高崎直成・鍋島直久
生涯学習課長 仲野政男	大井町臨時職員・発掘調査補助員	土本医
4. 本書作成にあたっての作業分担は次のとおりである。
 執 筆：縄文土器 今井堯、本文・遺構 高崎直成
 土器・陶磁器実測：青山奈保美、石垣ゆき子、石原聡、高橋けい子、丹治つや子、山口妙子
 石器実測：石原聡、高橋けい子 土器拓影：石垣ゆき子、植田勢津子、高橋けい子、山口妙子
 土器復元：中田藤子 トレース：青山奈保美、小林登喜枝、須藤さち子、 表作成：植田勢津子
 図版作成：青山奈保美、石垣ゆき子、須藤さち子、高橋けい子、中田藤子、山口妙子、丹治つや子
 遺構写真：坪田幹男・高崎直成・鍋島直久・土本医 遺物写真：高崎直成
 土器・石器実測の一部を（有）文化財COMに委託した。
 また、整理作業のなかで日本考古学協会の今井堯氏の援助と協力を得た。
5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）
 会田昭明、浅野晴樹、穴澤義功、天ヶ嶋岳、荒井幹夫、市丸靖子、内田賢司、岡田憲治、小澤千恵子、加藤秀之、梶原勝、梶原喜世子、神木繁嘉、國見徹、隈本健介、小出輝雄、駒井和久、桜井信枝、笹森健一、佐藤啓子、島田一郎、高橋京子、田中信、中島宏、塚田政子、原口雅樹、早坂廣人、松本新八郎、松本富雄、水村孝行、柳井章宏、柳沢健司、和田晋治
 埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課、東久保土地区画整理組合、大井町立郷土資料館、大井町遺跡調査会、（有）文化財COM。
6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。
 〈発掘調査参加者〉（敬称略）
 新井和枝、荒井美奈子、飯塚泰子、石原聡、井上晴江、海老原サナエ、大曾根キク子、笠原英子、金子君子、金丸文男、小林こずい、酒井昭、佐久間ひろ子、篠崎忠三、鈴木英子、鈴木エミ子、関田成美、高木千恵子、戸澤竹二、中嶋末子、野岡由紀子、野沢松代、林きぬ子、比嘉洋子、三村美代子、若尾久美子、若林紀美代
 〈整理作業参加者〉（敬称略）
 青山奈保美、石垣ゆき子、石原聡、植田勢津子、小林登喜江、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、山口妙子

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。
 - (1) 縮尺は原則として
 遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 炉などの詳細図 1:30
 土器実測図 1:4 土器拓影図 1:3 石器実測図 1:3、2:3 銭 1:1
 - (2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。
 - (3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。
 攪乱 地山（ローム） 焼土
 土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 礫 ○
 - (4) 土器実測図における screen-tone の指示。
 地文縄文 撚糸文
 - (5) 土器断面図は、「」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。
2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号にしている。
3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

第2表 1998年度埋蔵文化財調査一覧表

	遺 跡 名	申 請 地	面積 (㎡)	原 因	試 掘 期 間	調 査 措 置
1	江川南遺跡第9地点	東久保1街区2・3画地	875	共同住宅	10.10.9	試掘
2	江川東遺跡第5地点	東久保1-155-6	164	土地分譲	10.6.1～10.6.9	試掘
3	亀久保堀跡遺跡第7地点	東久保32街区7画地	165	砂利敷駐車場	10.11.16	試掘
4	亀久保堀跡遺跡第11地点	東久保2街区12画地	151	個人住宅	10.4.8～10.4.22	試掘
5	亀久保堀跡遺跡第12地点	東久保258-46	123	個人住宅	10.5.8～10.5.21	試掘
6	亀久保堀跡遺跡第13地点	東久保5街区11・12画地	107	個人住宅	10.5.8～10.5.21	試掘
7	亀久保堀跡遺跡第14地点	東久保2街区11画地	132	個人住宅	10.4.8～10.4.22	試掘
8	亀久保堀跡遺跡第15地点	東久保7-2街区4・5画地	111	個人住宅	10.5.8～10.5.21	試掘
9	亀久保堀跡遺跡第16地点	東久保5街区18・19画地	117	個人住宅	10.6.1	試掘
10	亀久保堀跡遺跡第18地点	東久保7-2街区1・2・7～9画地	908	個人住宅4軒分	10.11.5～10.11.30	試掘
11	亀久保堀跡遺跡第19地点	東久保4街区11・12画地	99	個人住宅	10.11.5～10.11.10	試掘
12	亀久保堀跡遺跡第20地点	東久保8街区5画地	185	個人住宅	10.11.24	試掘
13	東久保西遺跡第4地点	東久保10街区1画地	298	砂利敷駐車場	10.12.2	試掘
14	東久保西遺跡第5地点	東久保9街区9画地	194	個人住宅	10.12.14	試掘
15	東久保西遺跡第6地点	東久保12街区1・2・10画地	1,959	店舗	11.2.9～11.2.15 (11.2.24～11.3.1)	試掘後遺跡調査会で本調査
16	東中学校西遺跡第13地点	東久保2街区12画地	218	専用住宅	10.6.9～10.6.11	試掘
17	東中学校西遺跡第14地点	東久保44街区11・20・26画地	1,231	共同住宅	10.6.23～10.6.26	試掘
18	東中学校西遺跡第15地点	東久保45街区1・4・6画地	2,649	店舗専用駐車場	10.8.24	試掘
19	東中学校西遺跡第16地点	東久保42街区6画地	1,347	店舗専用駐車場	10.8.19～10.8.31	試掘
20	東中学校西遺跡第17地点	東久保38街区7・8画地	1,131	店舗専用駐車場	10.8.24	試掘
21	東中学校西遺跡第18地点	亀久保319-1	850	テニスコート	11.2.15～11.2.17	試掘
22	東中学校西遺跡第19地点	東久保52街区8画地	944	アスファルト駐車場	11.3.17	試掘
23	東久保南遺跡第14地点	東久保63街区2画地	333	個人住宅	10.6.25～10.7.1	試掘
24	東久保南遺跡第15地点	東久保60街区6画地	143	個人住宅	10.7.8～10.7.9	試掘
25	東久保南遺跡第16地点	東久保59街区3画地	541	共同住宅	10.12.14	試掘
26	東久保南遺跡第17地点	東久保46街区9・10・17画地	1,264	自動車ショールーム	11.2.2～11.2.3	試掘
27	西ノ原遺跡第110地点	苗間146-2	385	郵便局	10.4.20～10.5.28	試掘
28	西ノ原遺跡第111地点	大井苗間23街区9画地	354	個人住宅	10.10.23～10.10.27	試掘
29	西ノ原遺跡第112地点	大井苗間23街区9画地	144	個人住宅	11.2.9	試掘
30	中沢前遺跡第15地点	大井苗間34街区1画地	109	個人住宅	10.7.13	試掘
31	中沢前遺跡第16地点	大井苗間30街区6.7画地	482	共同住宅	11.3.12～11.3.15	試掘
32	中沢前遺跡第17地点	大井苗間32街区2画地	165	個人住宅	11.3.12～11.3.15	試掘
33	神明後遺跡第7地点	苗間260	1,460	個人住宅	10.6.1～10.6.2	試掘
34	神明後遺跡第8地点	苗間235-1	458	共同住宅	10.7.21～10.7.24	試掘
35	神明後遺跡第9地点	苗間310-1	219	共同住宅兼自家用車庫	10.9.1～10.9.11 (10.9.14～10.10.15)	教育委員会で 本調査

Ⅷ 西ノ原遺跡の調査

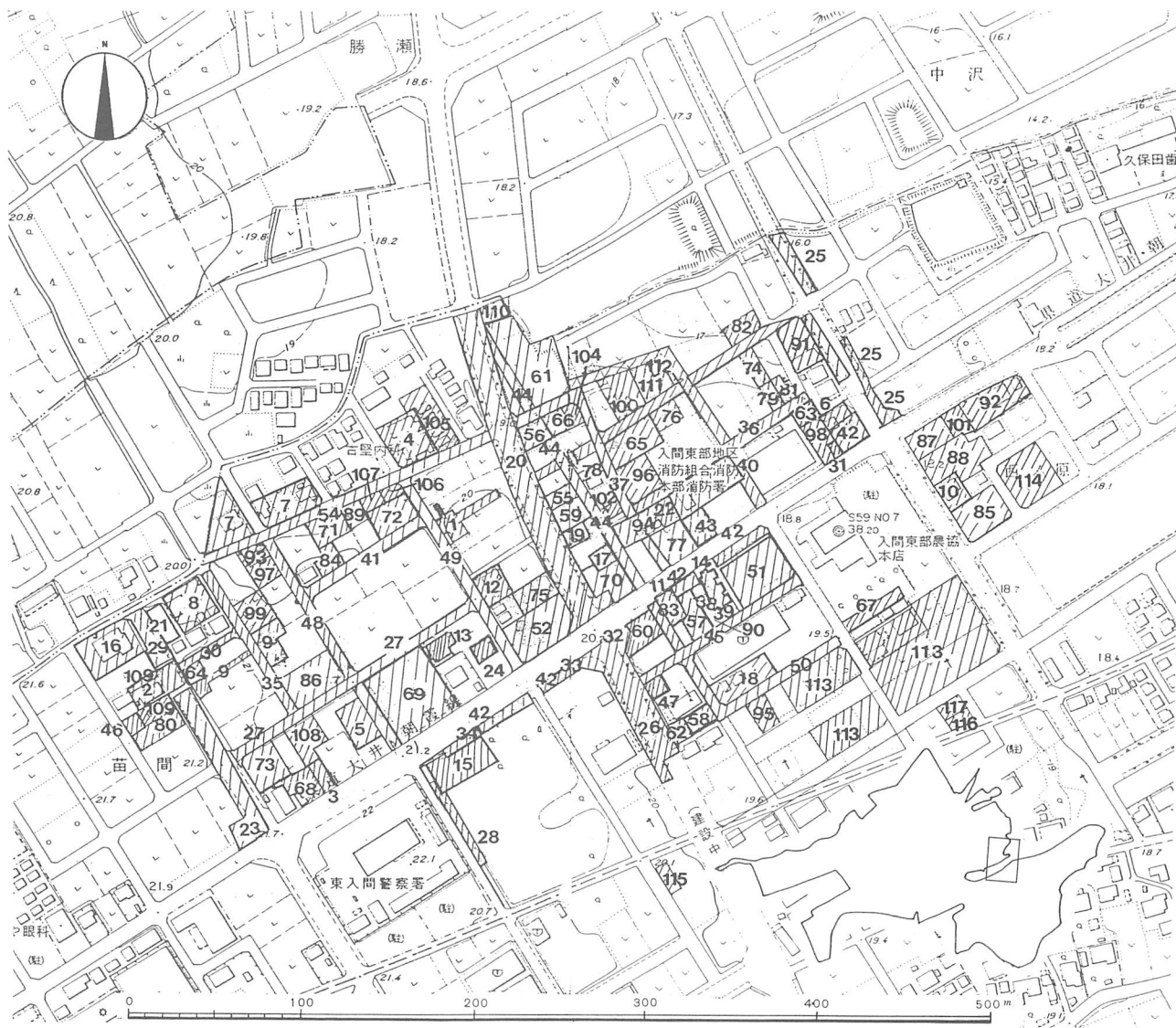
1 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18～21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬宇茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡との高低差は2～3mで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

本遺跡の発掘調査率は町内遺跡群では突出している。昭和40年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯

であったが、ここ数年開発の増加により遺跡の破壊が進んでいる。と、同時に発掘調査も遺跡面積10haの約40%が調査されてきている。1971年以来で117ヶ所余りに及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、確認された遺構と遺物から旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、160軒を超す住居跡が環状集落として形成され町内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。

2000年3月現在の調査状況によると、縄文時代中期の住居跡が161軒確認されている。



第42図 西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

2 西ノ原遺跡第110地点

(1) 調査の概要

調査は郵便局建設に伴うもので、原因者から1998年3月31日付けで、「埋蔵文化財事前協議書」が提出された。調査区は遺跡の北部にあたるため申請者と協議の結果、遺跡範囲と遺構の存在確認のための試掘調査を実施することとした。

試掘調査は4月20日から幅約2mのトレンチを4本設定し、重機による表土除去の後、人力による表面精査を行った結果、トレンチ1～2で黒褐色土の範囲を確認したため重機で拡張し、表土除去後人力による調査を行った。調査の結果、旧石器時代の礫群1ヶ所、縄文時代の落とし穴1基、集石1基を検出し5月8日調査を終了した。

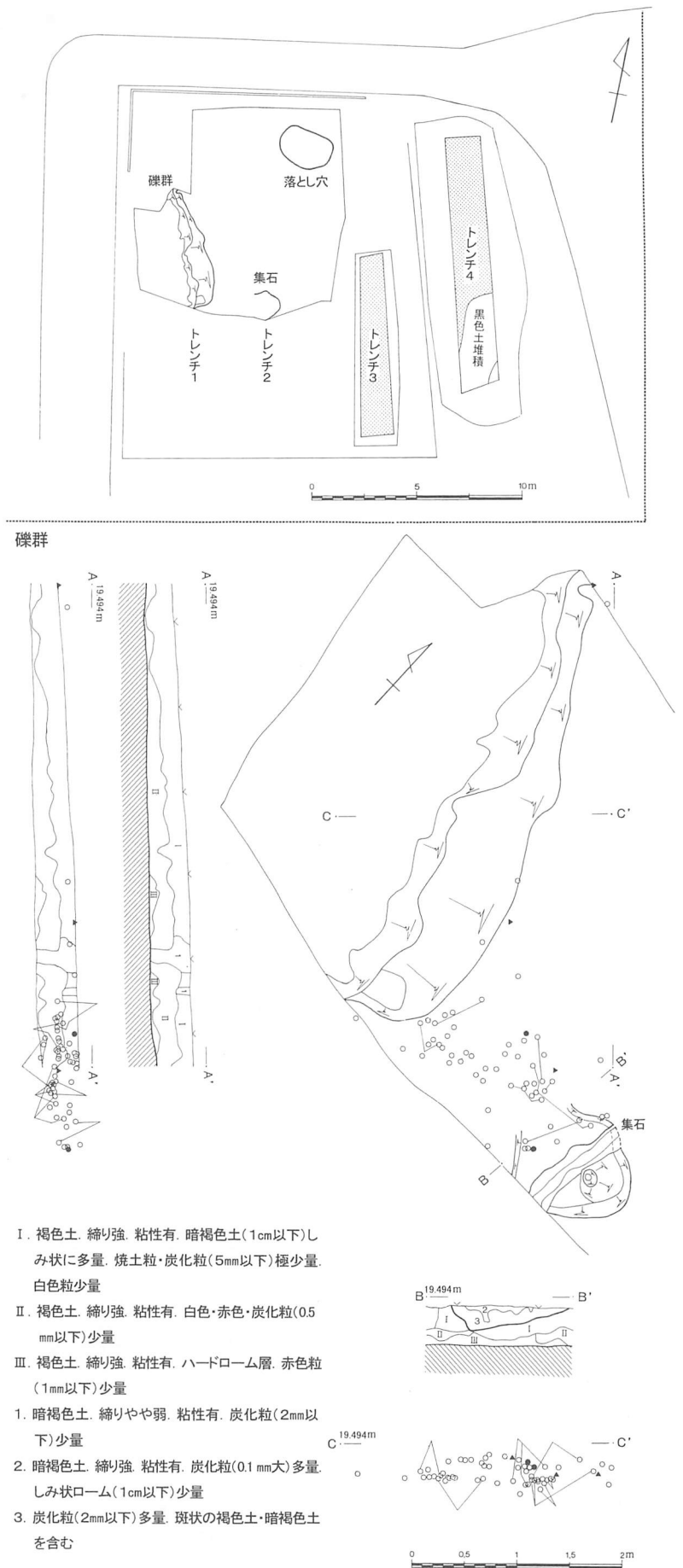
(2) 遺構と遺物

【礫群】集石土坑と接しているが、集石土坑より下層の立川ローム第Ⅲ層(ソフトローム)中より検出した。2.6×2.4mの範囲に散在する。総点数47点、総重量6587.5g。

【集石土坑】集石はA・B2ヶ所のまとまりがある。Aは長径86×短径66cmの卵形、Bは長径27×短径19cmの円形範囲に広がる。土坑プランは上端114×110cm、下端110×93cm。中央に幅20～25cm、深さ27cmの南北方向の溝状の掘り込みと、上端40×40cm、下端6×5cm、深さ48cmの円形の掘り込みがある。総点数231点、総重量11,473g。

【落とし穴】調査区中央部に東西方向に長く位置する。上端の平面形態は楕円形、底面は長方形を呈する。規模は上幅248×168cm、下幅166×52cm、深さは確認面から223cmを測る。

【出土遺物】1～6は礫群の西側にある斜面地の攪乱中から出土。1～4は同一個体の可能性が高い。1は口唇下に横位の細沈線、胴位には斜位細沈線で山～菱形を作る。胎土に乳白色砂粒と植物繊維を含み、口唇は方頭状で、焼成良好で表面暗褐色・裏面赤褐色を呈し、2～4の胴部片と共に田戸下層式である。

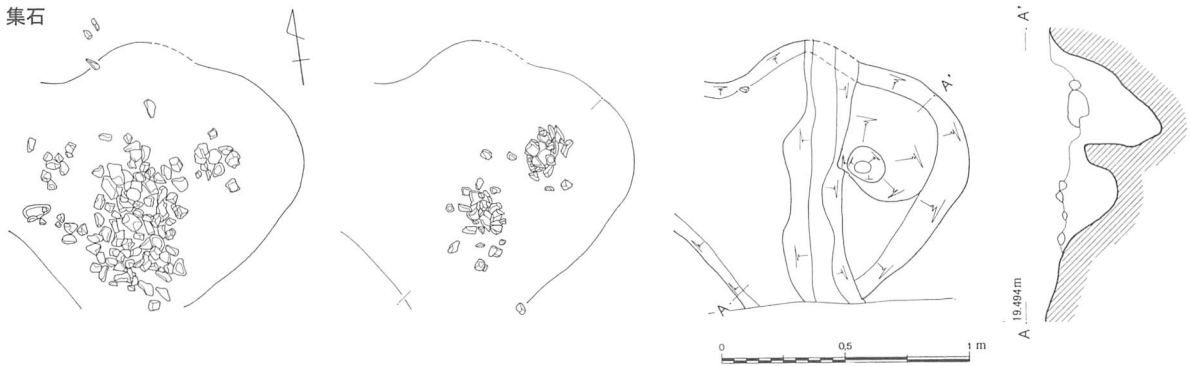


5は地文縄文の胴部片。

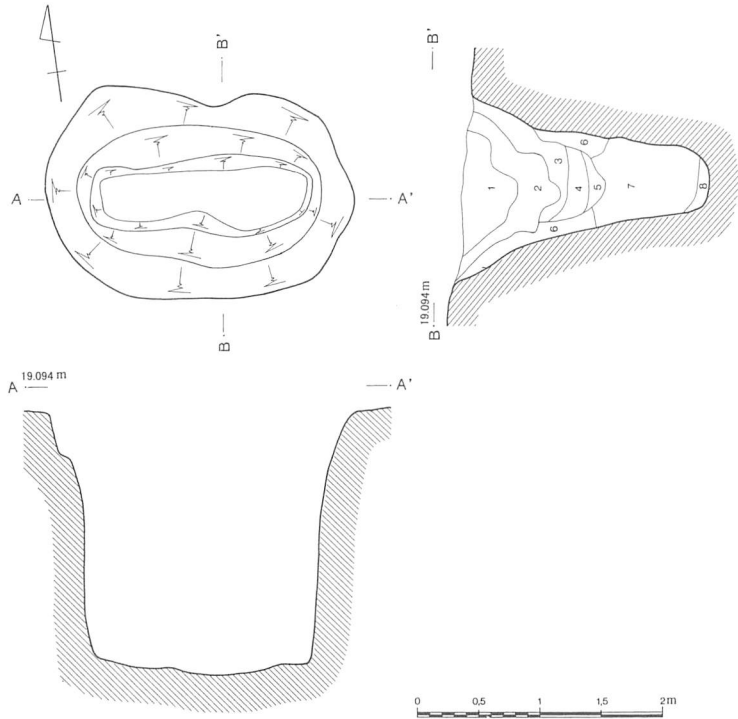
6と7は落とし穴出土で、管状工具による弧状沈線のみで、胎土にガラス光沢の物質を多く含む。8～11は遺構外出土で、9は1～4と同類で、8・10・11は細縄文を地文とする中期後半。

第18表 西ノ原遺跡第110地点礫群計測表

礫数	47	完形数	6(12.8%)
重量	6587.5g	完形重量	2010.9g(30.5%)
平均重量	140.2g	接合礫数	16(34.0%)
赤化礫数	41(87.2%)	接合重量	2391.2g(36.3%)
赤化重量	6448.5g(97.9%)	接合完形数	10(21.2%)
煤付礫数	36(76.6%)	接合完形重量	2837.4g(44.0%)
煤付重量	6391.3g(97.0%)	接合平均重量	173.3g



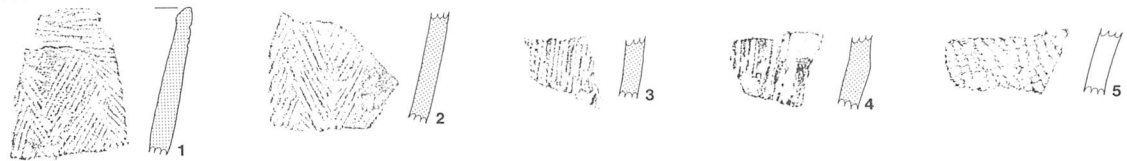
落とし穴



落とし穴

1. 黒色土. 締り強. 粘性有. ローム粒(2mm以下)多量
2. 黒褐色土. 締り強. 粘性有. 1層よりやや明るくローム粒(2mm以下)少量. 暗褐色土(2cm以下)しみ状に少量
3. 黒褐色土(黒色土+暗褐色土). 締り強. 粘性有. ややロームの方が多い. 黒色土は斑状を呈す
4. 暗褐色土. 締り強. 粘性有. 3層より更にローム多量. 黒色土少量
5. 暗褐色土. 締り強. 粘性有. ロームがレンズ状に堆積
6. 暗褐色土. 締りやや弱. 粘性有. ローム崩落土. しみ状の黒色土少量. 3・4層より明るくローム多量
7. 暗褐色土. 締り弱. 粘性有. 4層によく似るがボロボロしている. やや4層よりローム塊(10cm大)多量
8. 黒褐色土. 締り弱. 粘性有. 落ち葉等の腐植土と思われる

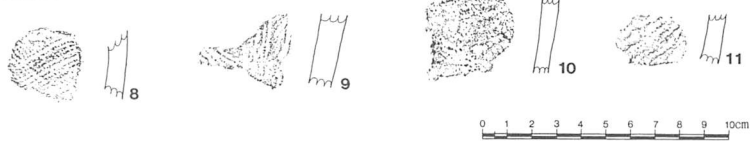
礫群



落とし穴



遺構外



第44図 西ノ原遺跡第110地点集石(1/30)・落とし穴(1/60)・出土土器(1/3)



東久保南遺跡第 15 地点 落とし穴



東久保南遺跡第 16 地点 調査区全景



東久保南遺跡第 17 地点 調査区全景



東久保南遺跡第 16 地点 出土土器



西ノ原遺跡第 110 地点 礫群



西ノ原遺跡第 110 地点 集石



西ノ原遺跡第 110 地点 落とし穴



西ノ原遺跡第 110 地点 出土土器